

ぶらっとサロン通信 令和2年11月増刊号



報告:有楽齋

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、3月10日から自粛し**現在休局中**です。

『草木写生春秋之巻』 狩野重賢画 明暦3(1657)～元禄12(1699)



日本の江戸時代は珍しく平和が長く続き、その間に世界に例を見ない園芸熱の高まりによって、園芸植物が発展したことを指摘する学者は多い。

実は椿への関心は、江戸時代以前からあって、豊臣秀吉も椿に一方ならぬ関わりを持っていた。それは、京都の地蔵院にある、加藤清正が朝鮮から持ち帰り、秀吉に献じたという五色八重散り椿や大徳寺総見院に残る太閤遺愛と伝えられるワビスケツバキの古木などの所在からうかがえる。また、これも真偽のほどはさだかでないが、北野・西方尼寺に利休手植えという「利休椿(散りツバキ)」というのものもある。当時の上流階級の人々は、椿の良さを知ってこれを愛好していたことは間違いない。

豊臣秀吉ゆかりの椿 『混陽山地蔵院五色散り椿』 『大徳寺総見院胡蝶侘助椿(こちょうわびすけつばき)』



京都椿寺(地蔵院)の散椿

五色散り椿

京都では北区大將軍の地蔵院(通称椿寺)の五色散り椿が有名である。これは加藤清正が朝鮮から持ち帰ったという伝承の銘木だったが、現在はそれが枯れて2代目だそうだ。北野上七軒の西方尼寺にも千利休ゆかりの五色散り椿の大木がある。さらに上賀茂柵野の民家にも立派な散り椿があり、この3本が京都の「五色散り椿」三銘木である。



京都府立植物園ツバキ展にて展示 2013年3月23日

豊公遺愛わびすけ

大徳寺総見院に残る太閤遺愛と伝えられるワビスケツバキ
秀吉が千利休から譲り受けたという樹齢400年の日本最古の「胡蝶侘助椿(こちょうわびすけつばき)」



大徳寺総見院
「豊公遺愛わびすけ」
石碑